

研究助成事業

助成の対象となった研究題目は次の通りです。

(1) 2008年度(8件)

- ① 骨格筋Ca-ATPaseの機能単位形成メカニズムの解明を目指して
- ② カラスの音声コミュニケーションに関する環境への適応能力の検証
- ③ E・キューブラー＝ロスを起点とする生と死の教育の日米比較研究
- ④ 受刑者の社会復帰教育におけるイヌとの触れ合いの効果
- ⑤ 小鳥の性成熟と歌学習臨界期に関与する神経ペプチドの固定と機能解析
- ⑦ IP3の内在性擬似分子による細胞機能の制御機構の解明
- ⑧ 鳥類における雄親の繁殖への貢献と雌親の育児負担の関連性

(2) 2009年度(7件)

- ① サービス・コンピューティングにおける意思決定加速化アルゴリズムの構築
- ② カラスの鳴き声による伝達情報と環境への適応性の解明
- ③ 部分境界観測に基づく電磁場源推定逆問題の直接解明
- ④ 広汎性発達障害モデルを用いた高次脳機能障害の分子機構解明
- ⑤ 新しい記憶と古い記憶の細胞メカニズムの解析
- ⑥ 昆虫の筋細胞を駆動源とするバイオアクチュエータの遠隔光制御法に関する基礎研究
- ⑦ 細胞内カルシウムシグナルが果たす生理機能の解明

(3) 2010年度(8件)

- ① マラリア原虫感染が明らかにするガンマデルタT細胞による造血調整機構
- ② カラスのコミュニケーションにおける音と視覚の相互作用に関する研究
- ③ 生体内気圧検出機構の解明ー内耳および三叉神経系の気圧検出機能についてー
- ④ 電磁場源の位置推定逆問題に対する直接解法と計測法
- ⑤ 細胞凝集反応制御に基づく多細胞三次元構造体の生体外作製法の確立
- ⑥ 昆虫の筋細胞を駆動源とするバイオアクチュエータの光駆動制御法に関する基礎研究
- ⑦ 寒冷な環境における親による子への保温行動の重要性～
親の育児投資が子の生存に与える影響に関する野外実証実験
- ⑧ リハビリ効果を有する下肢装具開発のためのベイジアンネットワークを用いた足部筋骨格モデルの作成

(4) 2011年度(9件)

- ① マラリア原虫感染が明らかにするガンマデルタT細胞による造血調整機構
- ② 生体内気圧検出機構の解明ー内耳および三叉神経系の気圧検出機能についてー
- ③ マダガスカル南部に特異的な乾生林の火災回復調査
- ④ 江戸文化圏の成立に関する建築史学的研究
- ⑤ ヒト体性肝細胞の多細胞三次元構造体の生体外構築と高性能肝毒性評価用ツールとしての応用
- ⑥ キラル構造を持つ微小管集合体の動的構造転移評価
- ⑦ 昆虫の筋細胞を駆動源とするバイオアクチュエータの光駆動制御法に関する基礎研究
- ⑧ 長期in vivoイメージングによる神経活動の解析
- ⑨ 歌鳥から同定した神経ペプチドホルモンによる社会性行動へのモチベーション制御機構の解明